

# 平成21年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報



(志ヶ窪遺跡⑧-⑩地区(西志ヶ窪1丁目)出土 打製石斧 磨石)



(花沢東遺跡②地区(南町2丁目)Bトレンチ全景)



(志ヶ窪遺跡④地区(西志ヶ窪1丁目)遺物出土状況)



(志ヶ窪遺跡⑧-⑩地区(西志ヶ窪1丁目)出土 縄文土器探跡)

2011年3月  
国分寺市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、東京都国分寺市において、平成21年度に実施した個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査（以下個人宅造）および民間開発に伴う確認調査の概要をまとめたものである。なお、付編として平成3年から平成13年に実施した個人宅造及び試掘・確認調査のうち、遺構・遺物の検出が無かった小規模調査の平成19・20年度年報の遺漏分を掲載した。また巻末に、平成18年度年報報告分のうち武蔵国分寺跡第608次及び第611次調査の調査区全体図の修正図を掲載した。
2. 発掘調査は文化庁と東京都の補助を受け、国分寺市教育委員会が調査主体者となり、国分寺市遺跡調査会に委託して調査を実施した。
3. 本書の執筆は、国分寺市教育委員会の立川明子が担当した。遺物写真は小野本教が撮影し、実測・トレース・版下作成・編集は立川の指示の下、国分寺市遺跡調査会の佐藤令、佐藤緋佐子、島田智博、小林幸江が行った。
4. 縄文土器の型式は、国立ハンセン病資料館黒尾和久・早稲田大学大網信良の各氏にご教示を賜った。記して感謝を申し上げる。

## 凡 例

1. 本書に記載した各遺跡における遺構表示は、下記の記号を冠して遺構毎に連続番号を与え登録している。但し、小穴については調査回数ごとに連続番号を付している。縄文時代の住居、土坑は末尾にJを付し、小穴はPJを冠して、歴史時代の遺構と区別している。

SI	竪穴住居	SD	溝	SK	土坑	P	小穴
PJ	縄文時代小穴						

2. 本書に記載した遺物は、調査回数ごとに下記の記号を冠し、種別ごとに連続番号を与えて登録したものを次数別に表示した。

歴史時代	土器類	PH	土師器				
	瓦埴類	KC	男瓦				
縄文時代	土器類	JB	早期前半	JE	中期前半	JF	中期後半
	土製品	DE	土製円板				JG 後期
	石器類	AC	石錐	AD	スクレイパー	AG	打製石斧
		AP	石皿	AT	剥片		AL 磨石

3. 縮尺は下記の通りである。

遺構	全体図	1/100	1/150	1/200	1/250	1/300	1/400
遺物	歴史時代	〔図面〕・〔図版〕	土器類	1/3	瓦埴類	1/4	
	縄文時代	〔図面〕・〔図版〕	土器類	1/3	土製品	1/3	石器類 1/3

4. 調査の基準線は、武蔵国分寺跡においては僧寺金堂・講堂間に原点を置く局地座標系による。（旧日本測地系、世界測地系へ変換可）

恋ヶ窪遺跡他の遺跡については世界測地系第9系による。

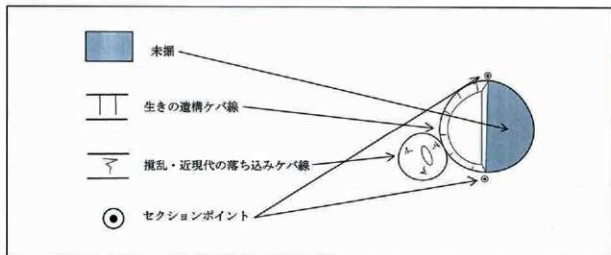
5. 調査の分層は、武蔵国分寺跡周辺の調査における国分寺市遺跡調査会の層位区分に基づいて行っており、本書における呼称も同様である。（参考：1985『武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷ』）

6. 遺物観察表は次数毎にまとめて列記している。表中の計測値は、（ ）の無いものは完数値、（ ）のあるものは残存数値、（ ）のあるものは復元数値、－は計測不可を示す。計測の単位は、長さ・幅・厚さがcmであり、重さはgである。

瓦の分類は、『武蔵国分寺跡発掘調査概報33』（国分寺市遺跡調査会 2006）に拠る。

## 7. 図面・図版の見方

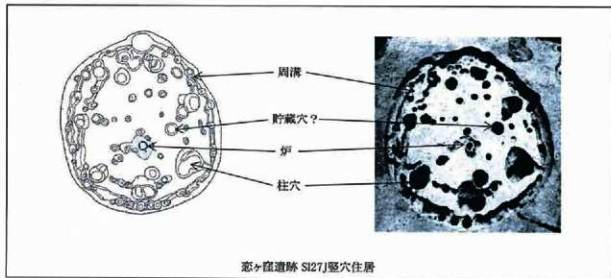
- ・トレンチ…埋蔵文化財包蔵地内で、掘削を伴う工事が、埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲を対象に設定した発掘調査区、及び試掘坑。
- ・未掘…検出された遺構を平面形のみ確認して掘削をしていない箇所。
- ・遺構ケバ線…遺構の平面図に加える線。遺構の上端（遺構の掘り込み始点）から、遺構の下端（遺構の底面）に向かって掘り込まれている様子を表わす。
- ・攪乱ケバ線…近現代以降に掘り込まれ、遺構を攪乱している（壊している）掘り込み。
- ・セクションポイント…遺構が構築されてから埋没するまでの過程を土層の堆積状況によって判断するために遺構を断ち割り、土層観察面を設定した地点。



## ・堅穴住居

地面を掘りくぼめて、上部に上層を建てた建物。縄文時代から中世まで使用されている。

縄文時代の堅穴住居は、住居範囲の地面を掘り、掘り込み内に柱を立て、柱から萱等の屋根を地面上に葺き下ろして居住空間を作っている。縄文時代の堅穴住居内には、調理に用いた炉、食物を貯蔵した貯蔵穴、壁面に巡らされた周溝などの施設がある。



茨ヶ窪遺跡 SI27 堅穴住居

## 目 次

例 言	1
凡 例	1
目 次	3
平成21年度 国分寺市遺跡調査会組織	4
第 1 章 平成21年度埋蔵文化財行政の概要	5
第 2 章 平成21年度埋蔵文化財調査の概要	10
平成21年度 調査地区位置図	11
平成21年度 調査地区一覧	13
①③ 武蔵国分寺跡第647・652次調査 個人宅造	14
② 武蔵国分寺跡第648次調査 個人宅造	16
④ 武蔵国分寺跡第649次調査 確認調査	18
⑤⑥ 武蔵国分寺跡第653・654次調査 確認調査	21
⑦ 恋ヶ嶺遺跡第84次調査 個人宅造	23
⑧ 恋ヶ嶺遺跡第85次調査 個人宅造	26
⑨⑩ 恋ヶ嶺遺跡第86・87次調査 個人宅造	32
⑪ No. 34遺跡第1次調査 確認調査	43
⑫ 花沢東遺跡第11次調査 確認調査	47
付編 平成3～13年度の小規模調査の概要	49
平成3～13年度 調査地区一覧・調査地区位置図	49
①② 武蔵国分寺跡第359・377次調査 個人宅造	50
③ 武蔵国分寺跡第540次調査 試掘調査	52
平成18年度武蔵国分寺跡第608次調査及び611次調査修正図	54
武蔵国分寺跡第608次調査 確認調査	55
武蔵国分寺跡第611次調査 確認調査	56

## 平成 21 年度 国分寺市遺跡調査会組織

### — 役員および監事 —

会 長	坂 詰 秀 一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	関 口 雄 基	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理 事	星 野 信 夫	国分寺市長
理 事	内 田 修 一	国分寺市教育委員会委員長
理 事	松 井 敏 夫	国分寺市教育委員会教育長
理 事	星 野 亮 雅	元国分寺市社会教育委員
理 事	北 原 進 一	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	坂 本 克 治	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	遠 藤 慈 郎	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	小 菅 政 治	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
専 務 理 事	本 橋 信 行	国分寺市教育委員会教育次長兼教育部長
監 事	榎 戸 潔 一	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡 崎 亮 樹	東京都教育庁地域教育支援部管理課事業調整担当係長

### — 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 —

委 員 長	坂 詰 秀 一	(考 古 学) 立正大学名誉教授
委 員	藤 井 恵 介	(建 築 史) 東京大学大学院工学系研究科教授
委 員	佐 藤 信 一	(古 代 史) 東京大学大学院人文社会系研究科教授
委 員	酒 井 清 治	(考 古 学) 駒澤大学文学部教授
委 員	松 井 敏 也	(保存科学) 筑波大学講師

### — 事務局 —

事 務 局 長	福 田 信 夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長兼史跡係長
事 務 局 員	加 瀬 勉 一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事 務 局 員	中 倉 まり子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
事 務 局 員	佐々木 徳 明	国分寺市遺跡調査会

### — 調査団 —

団 長	坂 詰 秀 一	立正大学名誉教授
主任調査員	上敷 頼 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係主任
調 査 員	小野木 敦 一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調 査 員	中 道 誠 一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	立 川 明 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	増 井 有 真	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	富 田 健 司	国分寺市遺跡調査会

## 第1章 平成21年度埋蔵文化財行政の概要

### 1. 土木工事に関する埋蔵文化財調査

平成21年度の周知の遺跡内における土木工事の届出は172件あった。慎重工事と教育委員会が具申した工事を除き、調査を実施したのは立会調査88件、確認調査4件、本調査11件である。なお、本調査のうち個人宅造2件、民間工事1件は前年度の届出により実施したものである。

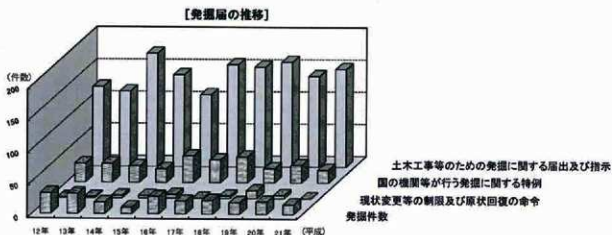
第1表 土木工事に関する調査内訳

立会調査	公共工事	19	88	103
	民間工事	69		
試験調査	公共工事	0	4	
確認調査	民間事業			
本調査	公共工事	1	11	
	民間事業(個人宅造を除く)	3		
	個人宅造	7		

調査原因を事業者別で見ると、公共工事業が20件、民間事業が83件である。事業計画内容の内訳は、公共事業では水道工事8件、道路工事4件、案内板立替・図名板設置・垣根修繕・看板設置・公園整備・柵設置・駐輪場整備・防球ネット張替各1件である。民間事業では個人宅造26件、ガス工事24件、電気工事7件、集合住宅建設・水道(他ガス・電気)各6件、水道工事5件、道路工事4件、電話工事3件、個人住宅兼店舗建設・原型復旧工事・校舎建設・公設柵移設・事務所建設・照明灯設置・宅地造成・道路(他集合住宅建設)各1件である。(第2表)

### 2. 申請・通知・届出の推移

文化財保護法第125条(80条)(現状変更等の制限及び原状回復の命令)、第94条(53条の3)(国の機関等が行う発掘に関する特例)、第93条(57条の2)(土木工事等のための発掘に関する届出及び指示)の発掘届の推移は以下の通りである。17年度以降は、大きな件数の増減はなく、ほぼ近似した件数で推移している。



第3表 申請・届出・通知件数

(平成)	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
発掘件数	32	31	18	10	27	20	21	18	19	15
125条(80条)	1	2	4	4	6	0	4	12	5	5
94条(57条の3)	29	29	25	21	41	35	40	22	27	20
93条(57条の2)	124	117	178	143	112	159	155	163	141	152

文化財保護法第125条の規定及び「特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等に関する規則」の規定に基づく許可申請書は以下の内容である。

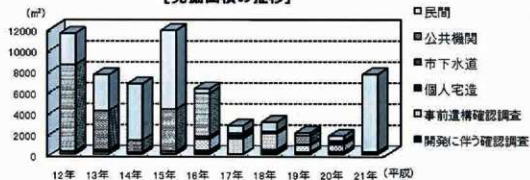
第4表 史跡名勝天然記念物に関する現状変更内容

現状変更内容	施工場所	件数
史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)史跡保存整備事業に伴う事前遺構確認調査	西元町2丁目1・2	1
長風門前除設原因を特定するための試験掘り	西元町1丁目13	1
木製階段及び園路修繕工事	西元町4丁目12	1
保育園施設耐震補強工事	西元町1丁目12	1

### 3. 発掘面積の推移

発掘面積の推移は以下の通りである。平成21年度は、大規模民間開発事業に伴う発掘調査が大幅に増加し、公共機関による開発事業に伴う調査・個人宅造・小規模民間開発に伴う確認調査は減少した。

【発掘面積の推移】



第5表 事業別発掘面積

(平成)	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
民間	2985.43	3448.17	5395.82	7508.6	455.58	694.74	867.74	270.73	445.14	7373.63
公共機関	8255.94	3707	1114.61	3992.98	4088.25	215.2	0	792.26	153.22	63.68
市下水道	0	110.1	0	0	0	0	0	0	0	0
個人宅造	330.74	155.44	144.48	18.71	263.41	322.59	220.15	120.82	208.23	45.59
遺構確認調査	0	207.67	117.25	177.4	1055.4	1456.31	1504.92	628.56	659.04	675.6
開発確認調査	0	0	0	149.45	430.17	84.55	512.61	276.28	327.63	190.74



## 4. 報告書の刊行

平成21年度に国分寺市教育委員会および国分寺市遺跡調査会が刊行した発掘調査等の報告書は以下の通りである。国庫補助金による発掘調査報告書1冊、保存整備事業報告書1冊、年報1冊、民間開発に伴う原因者負担による発掘調査報告書1冊である。

第6表 刊行報告書

タイトル	副題
武蔵国分寺跡発掘調査概報 35	僧寺伽藍地の確認調査
武蔵国分寺跡発掘調査概報 36	北方地区・(仮称)「旧国分寺市立第四小学校跡地土地利用計画」に伴う調査
国指定史跡武蔵国分寺跡	平成20年度保存整備事業に伴う事前遺構確認調査
平成20年度国分寺市埋蔵文化財調査年報	

## 5. 国庫補助金によって実施した発掘調査・整理作業

平成21年度における国庫補助金によって実施した発掘調査は、13地区である。事業別内訳は史跡武蔵国分寺跡(僧寺地区)事前遺構確認調査2地区、分譲住宅建設等民間開発に伴う確認調査4地区、個人住宅建設に伴う本調査7地区である。

国庫補助金によって実施した整理作業は、上記の刊行報告書作成に伴うもので、47地区の図面整理と出土遺物の整理作業を行った。事業別内訳は『国指定史跡武蔵国分寺跡平成20年度保存整備事業に伴う事前遺構確認調査』で4地区、『武蔵国分寺跡発掘調査概報35』で3地区、『平成20年度国分寺市埋蔵文化財調査年報』で40地区である。

## 6. 平成21年度国分寺市埋蔵文化財調査年報の作成について

埋蔵文化財調査年報は、国分寺市の市民サービスの向上等を目的とした取り組みである第3次行政改革実施プランに「わかりやすい発掘調査概要版(年報)の作成」として位置付けられており、一般的に理解しやすい年報の作成を目的として平成19年度版から改変を重ねているものである。平成21年度版は、全3回の年報編集会議を開催し、文化財愛護ボランティア1名にご参加いただいた。編集会議で出された意見を参考に編集方針を策定し、紙面の変更を行った。各編集会議内容は以下の通りである。

## 第1回(平成22年5月28日実施)

「現年報の改善点の確認および今後の課題」

## 第2回(平成22年7月16日実施)

「平成21年度実施調査成果からどのように分かりやすい年報を作成するか①  
一調査図面・写真から記載内容・レイアウトの検討一」

## 第3回(平成22年11月26日実施)

「平成21年度実施調査成果からどのように分かりやすい年報を作成するか②  
一遺物図面・写真から記載内容・レイアウトの検討一」

第2表 調査内訳一覧(1)

通番	道路No	申請工種	指中内容	工事価額(万円)	調査所見	実施日
1	34	個人住宅	立命	71.4	照度深さまで既施	09.4.23
2	19	個人住宅	立命	33.0	照度深さまで既施	09.10.12
3	10-19	水道・ガス給	立命	0.9	-	凍結なし
4	19	水道	立命	0.9	照度深さまで既施	09.4.2
8	37	水道	立命	20.3	-	凍結なし
6	19	個人住宅	本調査	55.56	詳細第2号⑤地区	-
7	23	ガス	立命	153.0	照度深さまで既施	09.4.10
8	37	個人住宅	立命	31.9	-	凍結なし
9	54	電気	立命	0.7	-	凍結なし
10	58	個人住宅	立命	55.3	照度深さまで既施	09.4.20
11	37	ガス	立命	4.0	-	凍結なし
12	10-19	電線	立命	0.7	-	凍結なし
13	10-19	電線	立命	0.7	-	凍結なし
14	21	電線	立命	0.3	-	凍結なし
18	19	ガス	立命	3.3	-	凍結なし
16	19	ガス	立命	3.4	照度深さまで既施	09.4.22
17	57	ガス	立命	1.2	-	凍結なし
18	10-19	管内成立費	立命	7.0	照度深さまで既施	09.4.30
19	10-19	宅地造成	雑費	233.00	詳細第2号⑤地区	-
20	8	水道	立命	3.6	-	凍結なし
21	29	原野開田	立命	182.0	照度深さまで既施	09.5.13
22	18	個人住宅	立命	142.5	照度深さまで既施	09.5.13
23	19	ガス	立命	1.0	-	凍結なし
24	52	個人住宅	立命	98.3	照度深さまで既施	09.7.6
25	19	ガス	立命	0.6	照度深さまで既施	09.5.13
26	19	照明灯	立命	28.0	照度深さまで既施	09.5.16
27	57	電気	立命	1.4	-	凍結なし
28	10-19	個人住宅	立命	100.4	照度深さまで既施	09.6.30
29	54	水道・ガス給	立命	7.3	照度深さまで既施	09.5.18
30	10	枝倉建設	立命	22.4	-	凍結なし
31	37	歩道幅寄せ	立命	0.3	-	凍結なし
32	19	個人住宅	立命	68.7	照度深さまで既施	09.7.22
33	8	ガス	立命	2.0	照度深さまで既施	09.6.2
34	7	ガス	立命	2.1	-	凍結なし
35	7	園名改称	立命	0.6	照度深さまで既施	09.4.30
36	8-28	電線	立命	86.0	-	凍結なし
37	19	道路	立命	82.0	照度深さまで既施	09.6.15
38	19	ガス	立命	11.4	照度深さまで既施	09.6.4
39	2	個人住宅	本調査	40.57	詳細第2号⑤地区	-
40	19	個人住宅	本調査	52.17	詳細第2号⑤地区	-
41	19	水道	立命	6.0	照度深さまで既施	09.6.19
42	8	ガス	立命	9.8	照度深さまで既施	09.6.5
43	2	ガス	立命	2.1	照度深さまで既施	09.8.19
44	2	電気	立命	1.4	-	凍結なし
45	10	個人住宅	立命	64.0	-	09.7.27
46	18-19	個人住宅	立命	87.82	-	凍結なし
47	53	道路	立命	1218.0	-	凍結なし
48	19	ガス	立命	2.7	照度深さまで既施	09.6.30
49	37	ガス	立命	2.3	照度深さまで既施	09.6.23
50	10	延焼修繕	立命	1.1	-	凍結なし
51	10	延焼修繕	立命	0.3	照度深さまで既施	10.3.8
52	54	集合住宅	雑費	435.92	詳細第2号⑤地区	-
53	18-19	ガス	立命	1.8	照度深さまで既施	09.7.13
54	37	電気	立命	2.8	照度深さまで既施	09.7.29
55	10	道路	立命	18.5	照度深さまで既施	09.7.10
56	32	ガス	立命	2.2	-	凍結なし
57	10	個人住宅	立命	46.6	-	凍結なし

通番	道路No	申請工種	指中内容	工事価額(万円)	調査所見	実施日
58	53	分譲住宅	立命	64.63	照度深さまで既施	09.8.4
59	41	個人住宅	立命	121.4	-	凍結なし
60	19	水道	立命	0.9	照度深さまで既施	09.7.13
61	54	集合住宅	立命	378.0	照度深さまで既施	09.12.9
62	37	電気	立命	1.4	-	凍結なし
63	8-28	道路	立命	2072.0	照度深さまで既施	09.9.25
64	10	道路	立命	1.4	-	凍結なし
65	54	電気	立命	1.4	照度深さまで既施	09.8.24
66	19	電気	立命	1.4	照度深さまで既施	09.8.28
67	2	個人住宅	本調査	87.77	詳細第2号⑤地区	-
68	54	個人住宅	立命	78.6	照度深さまで既施	09.10.2
69	19	集合住宅	雑費	116.81	詳細第2号⑤地区	-
70	19	水道	立命	8.7	凍結なし	10.2.1
71	9	水道	立命	1.0	照度深さまで既施	09.11.12
72	2	水道	立命	1.0	-	凍結なし
73	58	個人住宅	立命	44.7	照度深さまで既施	09.8.7
74	19	水道・ガス給	立命	4.0	照度深さまで既施	09.8.21
75	19	エプソール	立命	698.6	照度深さまで既施	09.10.21
76	37	電気	立命	1.4	-	凍結なし
77	19	ガス	立命	3.3	照度深さまで既施	09.8.28
78	19	ガス	立命	4.0	-	凍結なし
79	28	水道・ガス給	立命	11.6	-	凍結なし
80	19	ガス	立命	1.0	照度深さまで既施	09.9.21
81	19	電気	立命	0.7	-	凍結なし
82	10	電気	立命	1.4	照度深さまで既施	09.8.9
83	19-58	電気	立命	3.6	照度深さまで既施	09.9.16
84	7	電気	立命	0.3	照度深さまで既施	09.10.30
85	19	看板設置	立命	0.1	照度深さまで既施	10.2.5
86	52	ガス	立命	0.8	照度深さまで既施	09.9.25
87	10	防犯ネット	立命	1.4	ハーブホーム増設	09.11.4
88	10	水道	立命	20.0	照度深さまで既施	09.10.9
89	18-19	水道	立命	39.4	照度深さまで既施	09.10.9
90	2	水道	立命	1.6	照度深さまで既施	09.10.7
91	19	集合住宅	雑費	82.41	詳細第2号⑤地区	-
92	28	電線	立命	0.3	照度深さまで既施	09.11.10
93	10	集合住宅	立命	63.8	-	凍結なし
94	10	道路	立命	0.3	-	凍結なし
95	1	電線	立命	0.3	照度深さまで既施	10.3.23
96	19	敷設修繕	立命	2.7	照度深さまで既施	09.10.15
97	34	敷設修繕	雑費	20.14	詳細第2号⑤地区	-
98	55	道路	立命	437.0	-	凍結なし
99	41	ガス	立命	0.6	照度深さまで既施	09.10.19
100	19	個人住宅	立命	45.0	照度深さまで既施	09.12.3
101	10	道路	立命	5.4	-	凍結なし
102	54	公園整備	立命	2.7	-	凍結なし
103	53	枝倉建設	立命	4.0	-	凍結なし
104	52	個人住宅	立命	2.9	-	凍結なし
105	19	ガス	立命	0.7	照度深さまで既施	09.11.12
106	2	個人住宅	立命	34.7	-	凍結なし
107	18-19	電線	立命	0.7	ハーブホーム増設	10.2.10
108	19	ガス	立命	0.6	ハーブホーム増設	09.11.9
109	19	ガス	立命	3.3	照度深さまで既施	09.11.20
110	54	ガス	立命	1.5	-	凍結なし
111	7	公園整備	立命	12.9	照度深さまで既施	09.12.12
112	2-58	修繕費	立命	2300.0	照度深さまで既施	10.2.15
113	21	水道	立命	0.8	照度深さまで既施	09.11.26
114	21	水道	立命	8.7	照度深さまで既施	09.11.17



## 第2章 平成21年度埋蔵文化財調査の概要

### 調査の概要

個人住宅建設に伴う事前調査、および民間開発事業に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡6件、恋ヶ窪遺跡4件、No.34遺跡1件、花沢東遺跡1件の計12件である。排水管理設部分、建物基礎工事、道路拡幅工事を対象として調査を行った。武蔵国分寺跡の排水管理設部分を対象とした確認調査が本調査に移行した。

### 発見遺構と出土遺物

歴史時代の調査では、④地区の調査で10世紀の竪穴住居3軒他遺構が多数検出された。遺構が密集した状況で確認されたことで、武蔵国分寺衰退期における寺院地南東地域の集落構成を考える、新たな資料を得ることとなった。

縄文時代の調査では、恋ヶ窪遺跡で、舌状台地上に営まれた縄文時代中期の集落の中心地域において調査が実施された。各調査区は狭小でありながら遺構・遺物が多く検出された。特筆されるのは隣接する⑨・⑩地区で、竪穴住居(SI158J)の廃絶後に陥し穴(SK203J)が造られていたことである。同時期・同地域に、集落と陥し穴が併存したとは考えにくく、縄文時代中期において、集落の他に、狩猟の場としての土地利用が行われたことを示唆している。SI158Jの出土遺物は加曾利E2式期に属し、当該期の遺構であると考えられる。出土遺物の年代は、縄文時代早期から後期におよぶが、中期後半の加曾利E2～3式の土器が主体をなしており、当該時期に集落が多く営まれたと言える。既往の調査とも合致する成果が得られた。

武蔵野段丘上、恋ヶ窪谷の西方に位置するNo34遺跡において、初めて確認調査が行われ、縄文時代の土坑・小穴が検出された。縄文時代の遺物包含層であるⅢb層から縄文時代の土器・石器が少量出土し、崖線下の湧水源からやや離れた台地上にも遺構・遺物が存在することが分かった。

旧石器時代の調査では、花沢東遺跡で、野川本流と殿ヶ谷戸谷に囲繞された武蔵野段丘上、国分寺崖線斜面下部に立地する地点で調査が行われた。遺物および遺構は検出されなかったが、Vb層中から焼礫が検出された。傾斜地であるため段丘上から滑落した礫と考えられ、段丘上の遺構の存在を窺わせた。

### まとめ

武蔵国分寺跡における調査は、伽藍地南東地域で10世紀の竪穴住居が検出され、当該期における集落の様相の一端を知る良好な資料を得ることとなった。

恋ヶ窪遺跡においては、集落中心域で個人宅造に伴う調査が多く実施され、従来、竪穴住居が密集して検出される状況から集落と比定される地域においても、狩猟の場として土地利用されていた時期があったことが窺える貴重な成果を得た。

No.34遺跡においては、縄文時代の遺構が検出され、散布地とされる地域においても人為的な営みがあることが確認できた。

以上のように、平成21年度は、縄文時代の調査において充実した成果を得ることとなった。

平成21年度  
調査地区位置図

【恋ヶ窪遺跡】 西武×線1丁目、東武×線南側1・3丁目付近

武蔵野段丘上で、野川最上流の湧水地点が形成した恋ヶ窪谷を臨む縄文時代中期の集落です。水利に恵まれたことから多くの縄文時代の遺構が営まれました。

恋ヶ窪遺跡第86・87次調査→

縄文時代中期後半の竪穴住居が埋没した後に陥し穴が作られたことが分かりました。集落だけでなく、土地利用の変遷がうかがえます。



←縄文土器深鉢(加曾利E2式)  
出土状況  
縄文時代中期後半の土器が入り子状に重なり、横倒しになった状態で出土しました。



縄文土器深鉢(加曾利E2式)↑

竪穴住居から加曾利E2・3式の土器が多く出土し、住居の年代が縄文時代中期後半に位置づけられます。

【No.34遺跡】 西武×線2丁目付近

恋ヶ窪谷の西側で、湧水地点からはやや奥まって位置していますが、縄文・奈良・平安時代の遺跡が散布している遺跡です。

↓No.34遺跡第1次調査

当遺跡における初めての発掘調査で、縄文時代の遺構が見つかり、恋ヶ窪谷西側の段丘上で人為的な営みがあったことを確認しました。



石皿・磨石・打製石斧↑  
土掘り具と考えられる石斧と、食料の加工に使用した磨石、石皿などが多く出土しました。

【花沢東遺跡】 南武×線3丁目付近

湧水により形成された段々谷戸谷を含み武蔵野段丘上に、旧石器時代の遺構が多く営まれています。縄文時代前期の遺構も見つかっています。



↑花沢東遺跡第11次調査

段々谷戸谷の斜面を形成する立川ロームV層中から、焼土が2点発見されました。段丘上の集石遺構の礎が落したものと考えられます。

【武蔵国分寺跡】 西武×線南側1丁目、東武×線南側1・3丁目付近

武蔵国分寺は国分寺遺構を囲むように寺院地を有しています。その周辺に広がる集落を含めた遺跡を武蔵国分寺跡として埋蔵文化財包蔵地に指定しています。湧水地点があり、日照条件も良かったことから、旧石器時代から近代に至るまで遺跡が営まれています。

武蔵国分寺跡第649次調査→

寺院地内の南東地域で、平安時代(10世紀)の竪穴住居が3軒発見されました。



国分寺市遺跡(埋蔵文化財包蔵地)一覧

No.	名称	No.	名称	No.	名称	No.	名称
1	熊ヶ窪遺跡	10	武蔵国分寺跡(僧尼寺)	21	段々谷戸遺跡	29	No.29遺跡
2	恋ヶ窪遺跡	11	多摩窪遺跡	22	恋ヶ窪寺跡	30	No.30遺跡
3	恋ヶ窪南遺跡	12	伝持寺跡	23	No.23遺跡	32	長谷戸遺跡
4	羽根沢遺跡	13	No.13遺跡	24	No.24遺跡	33	No.33遺跡
5	第6遺跡	14	多喜保穴遺跡1号2号	25	No.25遺跡	34	No.34遺跡
6	No.6遺跡	15	多摩窪板遺跡	26	No.26遺跡	35	No.35遺跡
7	多摩窪板遺跡	16	花沢西遺跡	27	No.27遺跡	36	No.36遺跡
8	花沢西遺跡	17	武蔵国分寺跡	28	木町国分寺村石器時代遺跡	37	No.37遺跡
9	影山遺跡	18	段々谷北遺跡				



## 平成21年度 調査地区一覧

第7表 武蔵国分寺跡(遺跡No.10・19) 個人宅造に伴う本発掘調査

地区番号	調査次数	調査原因	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間(実施)	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
①	647	個人宅造	西元町三丁目1889-4	3.34	55.56	148.51	H21.4.20(1日間)	検出遺構なし	0
②	648	個人宅造	泉町一丁目19-9	13.81	62.43	218.10	H21.5.27~H21.6.1(2日間)	検出遺構なし	0
③	652	個人宅造	西元町三丁目2084-5	8.56	52.17	131.36	H21.8.3~H21.8.7(2日間)	検出遺構なし	0
面積合計				25.51	170.16	497.97		箱数合計	0

第8表 武蔵国分寺跡(遺跡No.10・19) 宅地造成・集合住宅建設に伴う確認調査

地区番号	調査次数	調査原因	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間(実施)	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
④	649	宅地造成	東元町四丁目9	70.59	233.90	673.66	H21.6.1~H21.6.8(5日間)	(歴史)野穴住居3軒、溝2条、土坑1基、小穴43基	1
⑤	653	集合住宅建設	西元町二丁目2541-10	14.10	146.81	255.76	H21.8.11~H21.8.18(4日間)	検出遺構なし	0
⑥	654	集合住宅建設	東元町四丁目1789-1,8,9	21.93	82.44	256.24	H21.10.14~H21.10.16(3日間)	(歴史)溝1条	1
面積合計				106.62	463.15	1,185.66		箱数合計	2

第9表 忍ヶ窪遺跡(遺跡No.2) 個人宅造に伴う本発掘調査

地区番号	調査次数	調査原因	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間(実施)	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
⑦	84	個人宅造	西忍ヶ窪一丁目22-15	9.97	49.78	124.69	H21.4.8~H21.4.13(4日間)	(縄文)小穴5基	1
⑧	85	個人宅造	西忍ヶ窪一丁目22-18	2.32	40.57	40.60	H21.6.22~H21.6.29(5日間)	(縄文)土坑1基、小穴2基	1
⑨	86	個人宅造	西忍ヶ窪一丁目22-19	3.82	87.77	115.30	H21.8.24~H21.8.28(5日間)	(縄文)野穴住居1軒、土坑1基、小穴1基	1
⑩	87	個人宅造	西忍ヶ窪一丁目22-16	3.97	55.15	138.05	H22.1.6~H22.1.15(7日間)	(縄文)野穴住居1軒、土坑1基	3
面積合計				20.08	233.27	418.64		箱数合計	6

第10表 No.34遺跡(遺跡No.34) 公共工事に伴う確認調査

地区番号	調査次数	調査原因	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間(実施)	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
⑪	1	公共工事	西忍ヶ窪二丁目3-3,4,10給	63.68	30.14	2,022.69	H22.1.20~H22.2.3(10日間)	(縄文)土坑1基、小穴1基	1
面積合計				63.68	30.14	2,022.69		箱数合計	1

第11表 花沢東遺跡(遺跡No.54) 集合住宅建設に伴う確認調査

地区番号	調査次数	調査原因	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間(実施)	検出遺構	遺物箱数
				調査	工事	対象			
⑫	11	集合住宅建設	南町二丁目381-7,8,15	20.44	435.92	725.55	H21.7.8~H21.7.15(2日間)	検出遺構なし	0
面積合計				20.44	435.92	725.55		箱数合計	0

総面積	236.33	1332.64	4850.51
-----	--------	---------	---------

総箱数	9
-----	---

## ①武蔵国分寺跡第647次調査 個人宅造

所在地 国分寺市西元町三丁目1889-4

調査面積 3.34 m<sup>2</sup>

調査期間 平成21年4月20日(1日間)

担当者 小野本敦

## 調査概要

調査区は、僧寺寺院地中軸線から約315m東方の寺院地外南東地域に位置する。調査の対象は排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲である。当該個所にトレンチを設定し調査を行った。地表下約40cmで、部分的に地山(Ⅲb層)を検出し、遺構確認を行ったが、調査区内は攪乱が多く、遺構は検出されなかった。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



1. 調査区全景 西から

## ③武蔵国分寺跡第652次調査 個人宅造

所在地 国分寺市西元町三丁目2084-5

調査面積 8.56 m<sup>2</sup>

調査期間 平成21年8月3日～8月7日(2日間)

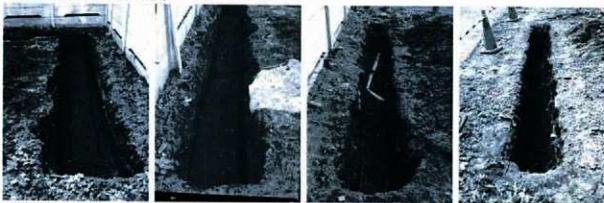
担当者 立川明子

## 調査概要

調査区は、僧寺寺院地中軸線から約54m東方の寺院地外南方地域に位置する。調査の対象は排水管理設により遺構に影響が及ぶ範囲である。当該個所に3本のトレンチを設定し遺構確認を行った。地表下約60cmで、部分的に地山(Ⅲb層)を検出し、遺構確認を行った。調査区内は攪乱が多く、遺構は検出されなかった。

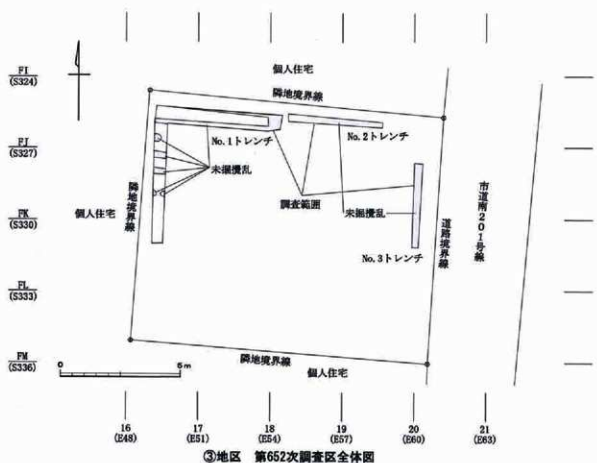
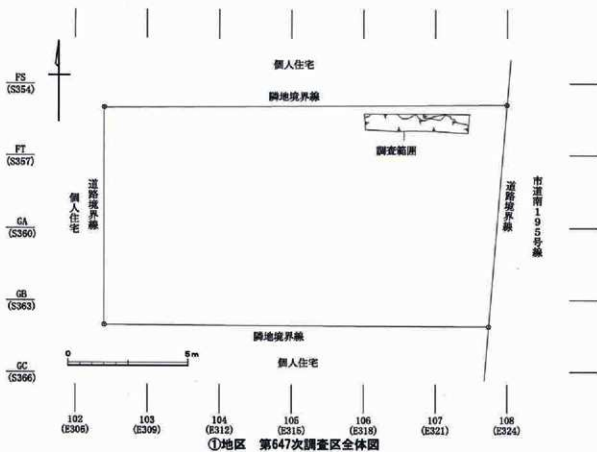
## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



1. No.1 トレンチ北側全景 東から 2. No.1 トレンチ西側全景 南から 3. No.2 トレンチ全景 西から 4. No.3 トレンチ全景 北から





## ②武蔵国分寺跡第648次調査 個人宅造

所在地	国分寺市泉町一丁目19-9	調査面積	13.61㎡
調査期間	平成21年5月27日～6月1日(2日間)	担当者	立川明子

## 調査概要

調査区は武蔵野段丘上に位置し、恋ヶ窪南遺跡に隣接しており、約80m北東方には、野川によって開削された恋ヶ窪谷の谷壁が存在する。調査の対象は、排水管理設によって遺構に影響が及ぶ範囲である。当該個所にトレンチを設定し遺構の発掘調査を行った。

地表下約30～40cmで地山(Ⅱ層)を検出したが、通常のⅡ層より、土質が細粒で粘性が強く地山と確定し難かったため、工事掘削深度である地表下約80cmまで掘削を行った。地表下約80cmで地山(Ⅲa層)を検出し、堆積状況から地表下約40cmにⅡ層以下の地山が残存していることを確定した。遺構確認はⅢa層で行った。また、地層確認のため、部分的に地山を掘り下げ、地表下約1.2mでⅢb層を検出した。遺構は検出されなかった。

国分寺市域において、Ⅱ～Ⅲb層の層厚は約10～20cmであるのに対して、本調査区においては、各層厚が約40cm以上と厚く堆積しており、崖線部等の斜面地における土の堆積状況と類似していた。Ⅱ層は通常より粘性が強く細粒であり、沖積土に類似した土質であった。以上の土層の特徴から、当該地は、武蔵野段丘上から恋ヶ窪谷の湧水底へ向かって小谷が形成された地形であったと考えられる。そのため、地山の残存状況は良好であったが、縄文時代の遺構確認面であるⅢc層は、現地表より約1m以上下に存することが分かった。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



1. 調査区全景 東から



2. 調査区全景 西から



②地区 第648次調査区全体図

## ④武蔵国分寺跡第649次調査 確認調査

所在地	国分寺市東元町四丁目9	調査面積	70.59㎡
調査期間	平成21年6月1日～6月8日(5日間)	担当者	小野本敦

## 調査概要

調査区は、僧寺寺院地中軸線から約360m東方の、寺院地南東地域に位置する。調査の対象は、宅地造成に伴う道路拡幅及び埋設物の設置によって遺構に影響が及ぶ範囲である。当該個所にトレンチを設定し遺構確認を行った。

地表下約40cmで地山(Ⅲb層)を検出し遺構確認を行った。検出された遺構は、堅穴住居3軒(SI811～813)、溝2条(SD418・419)、土坑1基(SK3421)、小穴43基(P-1～43)である。

小穴は、明確に柱の痕跡を残すものはない。

## 出土遺物

遺物は、表土から土師器甕1点、須恵器坏6点、須恵器甕4点、灰釉陶器埴1点、男瓦9点・女瓦6点が出土している。土師器甕(PH01)は、口縁部から頸部にかけてコ字状を呈する。男瓦(KC01)は凹面に成形台痕と思われる痕跡が認められる。



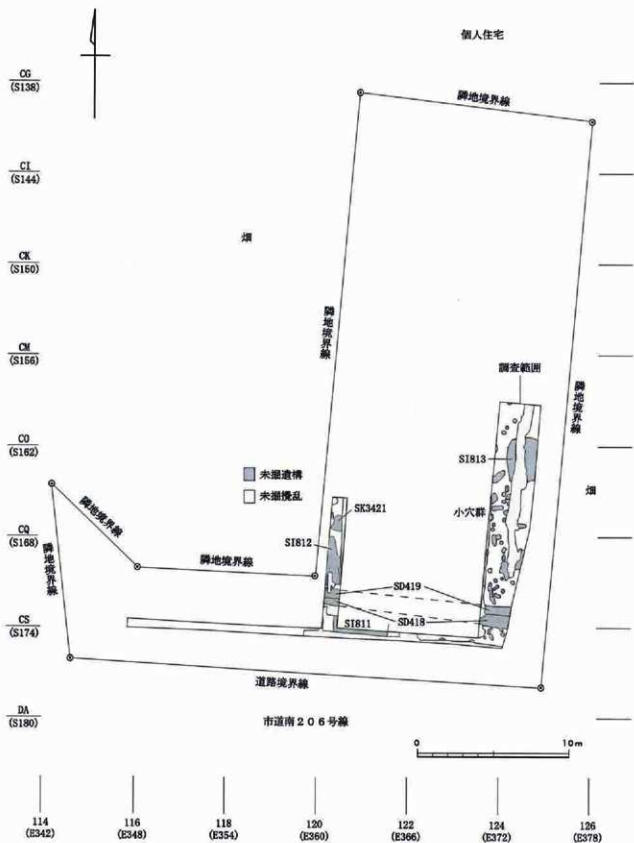
1. 東トレンチ全景 南から



2. 西トレンチ全景 南から



3. 南トレンチ全景 東から



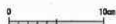
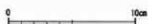
④地区 第649次調査区全体図



649 表土 PH01



649 表土 KC01



武蔵国分寺跡第649次調査 出土遺物

歴史時代 土器一覽										
遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備 考				
649-PH01	土師器 壺	表土	((14.2) (5.5) —	口縁部～頸部コ字状。	肩部横位にへら削り。	暗褐色～暗橙色。砂粒・金雲母やや 多量混入。				
男瓦一覽										
遺物番号	出土 位置	狭頸 広縁 全長	厚さ	成・整形の特徴					備 考	
				素 材	凹面		凸面			端面 特徴
649-KC01	表土	— (6.7) (11.5)	2.0	粘土胎	18×22	成形台痕? あり。	—	—	一面へら 削り	灰褐色。硬質。胎土緻密。 凹面に成形台痕?あり。

## ⑤武蔵国分寺跡第653次調査 確認調査

所在地	国分寺市西元町二丁目 2541-10	調査面積	14.10 m <sup>2</sup>
調査期間	平成21年8月11日～8月18日(4日間)	担当者	小野本敦

## 調査概要

調査区は、武蔵野段丘上で、東山道武蔵路(SF1)の西側に隣接する地点に位置する。

調査の対象は排水管理設によって遺構に影響の及ぶ範囲である。地表下約60cmで地山(Ⅲb層)を確認し、遺構確認を行った。調査区内は攪乱が多く及んでおり、遺構は検出されなかった。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



1. 調査区全景 北から

## ⑥武蔵国分寺跡第654次調査 確認調査

所在地	国分寺市西元町四丁目 1789-1,8,9	調査面積	21.93 m <sup>2</sup>
調査期間	平成21年10月14日～10月16日(3日間)	担当者	立川明子

## 調査概要

調査区は、僧寺寺院地中軸線から約606m東方の寺院地外東方地域に位置する。排水管理設によって、遺構に影響が及ぶ範囲にトレンチを設定し、確認調査を行った。地表下約40cmで地山(Ⅲc層)を検出し、遺構確認を行った。溝1条(SD420)が検出された。全体規模は不明であるが、幅員1m以上、確認面から深さ50cm、断面逆台形を呈する。年代は不明である。

## 出土遺物

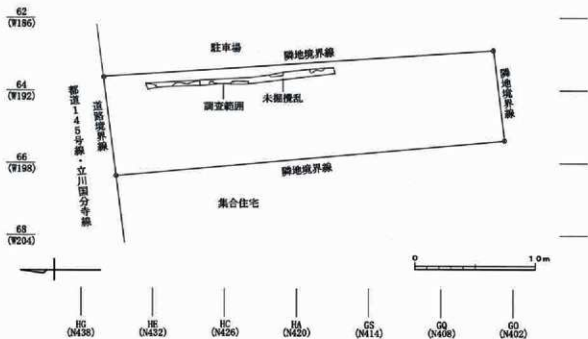
表土から近世陶器が出土した。



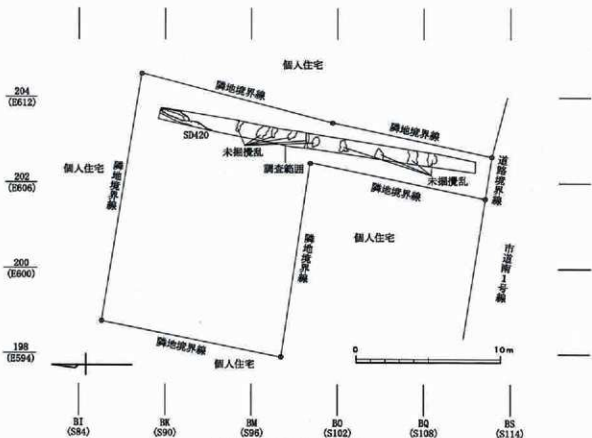
1. 調査区全景 南から



2. 調査区全景 北から



⑤地区 第653次調査区全体図



⑥地区 第654次調査区全体図



## ⑦恋ヶ窪遺跡第84次調査 個人宅造

所在地	国分寺市西恋ヶ窪一丁目22-15	調査面積	9.97㎡
調査期間	平成21年4月8日～4月13日（4日間）	担当者	小野本敦

## 調査概要

調査区は、縄文時代中期の集落遺跡である恋ヶ窪遺跡のほぼ中央に位置する。排水管理設によって遺構に影響の及ぶ範囲にトレンチを設定し、遺構の発掘調査を行った。地表下50cmで地山(Ⅲb層)を検出し、遺構確認を行った。検出遺構は、縄文時代の小穴5基(PJ-1～5)で、いずれも小規模である。

今回の調査区は、恋ヶ窪遺跡における集落の中心部と考えられる第14・16・17・18・19・21・26次調査区（『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅴ』1991・2008）の西側に隣接しており、多数の遺構の検出が予測されたが、予想に反して検出遺構は乏しかった。これは調査区の面積が小さく、偶然遺構にあたらなかったためと考えられる。出土遺物が比較的に豊富なことから、調査地内に縄文時代の住居跡が存在する可能性が高い。

## 出土遺物

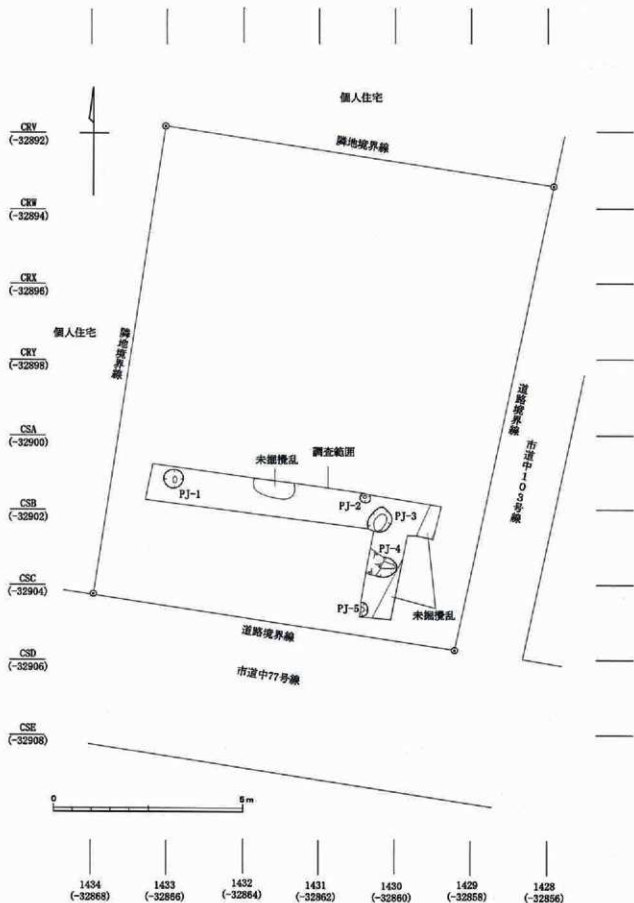
PJ-3から縄文土器3点が出土している。縄文時代の遺物包含層(Ⅲ層)からは、縄文土器119点、打製石斧6点、剥片2点が出土した。深鉢(JF01)は、加曾利E2式の土器で、単沈線を施文している。AG01・02は、刃部を削出している。狭小な調査区でありながら、出土遺物が多く、土器型式から、縄文時代中期後半の遺構が周辺に多く存在する可能性を窺わせた。



1. 調査区全景 西から



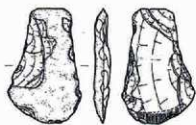
2. 調査区全景 北から



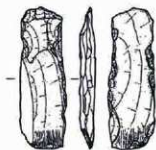
⑦地区 第84次調査区全体図



K2-84 Ⅲ層 JF01



K2-84 Ⅲ層 AG01



K2-84 Ⅲ層 AG02



恋ヶ窪遺跡第84次調査 出土遺物

縄文時代 土器一覽									
遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備 考			
K2-84 JF01	深鉢	Ⅲ層	— (4.6) —	—	口縁部に沈線で1条施文。 口縁部下、単沈線で楕円形 に区画し、区画内沈線で施文。	橙色。やや硬質。砂粒やや多量混入。 内面横方向にへろ磨き。加曾利E2式。			
縄文時代 石器一覽									
遺物番号	種別	出土 位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備 考
K2-84 AG01	打製 石斧	Ⅲ層	9.0	5.7	1.4	75.4	完形	砂岩	押圧により刃部削出。刃部付近に研磨痕あり。
K2-84 AG02	打製 石斧	Ⅲ層	11.1	3.7	1.3	81.2	完形	砂岩	押圧により刃部削出。刃部付近に研磨痕あり。

## ⑧恋ヶ窪遺跡第85次調査 個人宅遺

所在地	国分寺市西恋ヶ窪一丁目22-18	調査面積	2.32㎡
調査期間	平成21年6月22日～6月29日（5日間）	担当者	立川明子

## 調査概要

調査区は、武蔵野段丘上、恋ヶ窪谷に囲まれた恋ヶ窪遺跡の中心地に位置する。調査の対象は、排水管理設によって遺構に影響が及ぶ範囲である。

地表下約30cmで地山(Ⅱ層)を検出し、縄文時代の遺構確認面となるⅢb層まで包含層掘削し、遺構確認を行った。縄文時代の土坑1基(SK202J)、小穴2基(PJ-1・2)が検出された。SK202Jは、長径約1.06m以上、深さは確認面から約55cmで、平面形は円形を呈している。土坑底面には、焼土および炭化材が多量に堆積していた。周辺の調査で検出された竪穴住居は、床面が地山Ⅳ層まで深く掘り込まれているのに対して、SK202J周辺は、掘り込みが見えず、柱穴等も検出されないことから屋外炉と考えられる。小穴は、PJ-1が、長径36cm、深さ22cm、平面形は円形を呈している。PJ-2は、長径26cm、深さ48cm、平面形は円形を呈している。

## 出土遺物

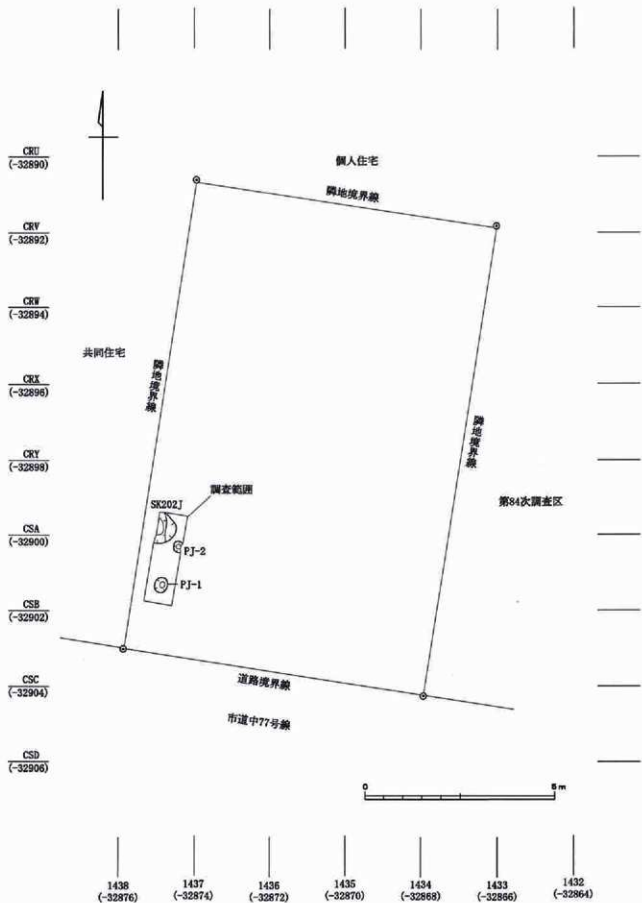
SK202Jから縄文土器29点、石皿1点、碎片1点、PJ-1から縄文土器2点、打製石斧1点、Ⅲb層上層から縄文土器98点、打製石斧2点、Ⅲb層下層から縄文土器222点、打製石斧9点、磨石2点、スクレイパー1点、石皿1点、剥片2点、表土から縄文土器1点が出土した。縄文土器は勝坂式(JE01～03)に対して加曾利E2式(JF01・02・04・10)の型式が多く、遺構の主体の時期は縄文時代中期後半であったと考えられる。



1. 調査区全景 東から



2. 調査区全景 南から



⑧地区 第85次調査区全体図



K2-85 IIIb層 JE01



K2-85 IIIb層 JE02



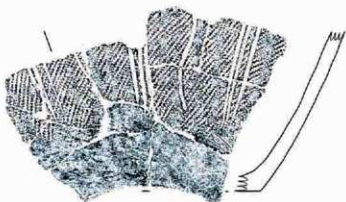
K2-85 IIIb層 JE03



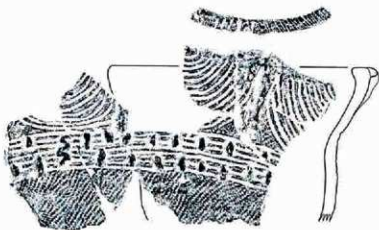
K2-85 IIIb層 JF04



K2-85 IIIb層 JF10



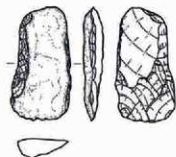
K2-85 SK202J JF01



K2-85 IIIb層 JF02



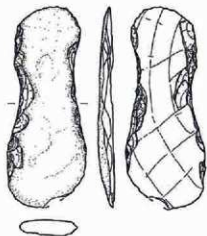
志々窪遺跡第85次調査 出土遺物



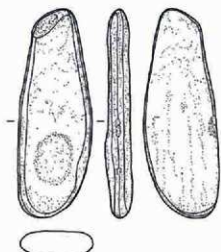
K2-85 PJ-1 AG01



K2-85 IIIb層 AT01



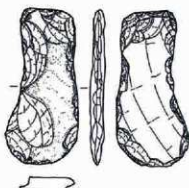
K2-85 IIIb層AG02



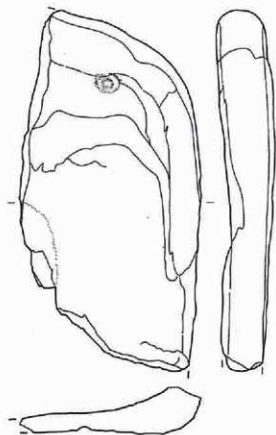
K2-85 IIIb層 AL01



K2-85 IIIb層 AD01



K2-85 IIIb層 AG03



K2-85 SK202J AP01





K2-85 JE01



K2-85 JF04



K2-85 JF10



K2-85 JF01



K2-85 JF02



K2-85 AG02



K2-85 AL01



K2-85 AP01



K2-85 AD01



K2-85 AT01

恋ヶ窪遺跡第85次調査 出土遺物



## 縄文時代 土器一覧

遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 器径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
K2-85 JF01	深鉢	Ⅲb層	— (5.6) —	直線的に立ち上がり、口縁部 付近肥厚。	ペン状工具により三角押文を波 状に施文。	褐色～黒褐色。やや硬質。砂粒・雲 母多量混入。湯飯1式(湯沢～新道)。
K2-85 JF02	深鉢	Ⅲb層	— (4.4) —	内湾気味に立ち上がる。	横位の沈線により区画し、区画内 の斜位の沈線を施文。	赤褐色。やや硬質。砂粒少量混入。 湯飯2式(薄内)。
K2-85 JF03	深鉢	Ⅲb層	— (6.4) —	直線的に立ち上がり、口縁部 肥厚して外反。	隆帯を貼り付け、隆帯上にヘラ 状刻み。単沈線で三又文・渦状 に施文。	褐色～暗褐色。やや硬質。白色粒子 多量混入。湯飯3式。
K2-85 JF01	深鉢	SK202J 覆土	— (13.4) (11.0)	体部～底部にかけてやや内 湾気味に立ち上がる。	単節縄文LRを縦位に施文。沈線 2条並行して、1条波状で重下。	赤褐色。やや硬質。砂粒やや多量・ 雲母少量混入。加賀利E2式。
K2-85 JF02	深鉢	Ⅲb層	((21.2) (13.4) —	口縁部～体部上部内湾。体 部やや内湾。口縁部肥厚。	口縁部・胴部を7条の沈線により 区画。沈線上に互角状隆帯を貼 付。口縁部隆帯により区画し、複 線の沈線で連環状出し。	暗褐色。やや硬質。小石・砂粒やや 多量混入。加賀利E2式。
K2-85 JF04	深鉢	Ⅲb層	— (5.6) —	口縁部内湾。	隆帯で両巻文と横円区画。区画 内を単節縄文LRを縦位に施文。 内面全面ミガキ調整。	褐色。砂粒微量混入。硬質。加賀利E 2式。
K2-85 JF10	深鉢	Ⅲb層	— (7.0) —	内湾気味に立ち上がる。	隆帯で横円に区画。区画内を単 節縄文LRを縦位に施文。	淡褐色。やや硬質。砂粒・雲母微量 混入。加賀利E2式。

## 縄文時代 石器一覧

遺物番号	種別	出土 位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
K2-85 AD01	スクレイ パー	Ⅲb層	5.2	9.4	1.5	58.9	完形	砂岩	表面上部を敲打により成形。裏面刃部を 押圧により削出。
K2-85 AG01	打製 石斧	PJ-1 覆土	9.4	4.9	1.7	88.8	完形	砂岩	側縁押圧により刃部調整。
K2-85 AG02	打製 石斧	Ⅲb層	16.7	6.5	1.3	174.5	刃部一部 欠損	ホルンフェルス	側縁押圧により刃部調整。
K2-85 AG03	打製 石斧	Ⅲb層	12.9	6.0	1.2	122.1	完形	ホルンフェルス	側縁押圧により刃部調整。
K2-85 AI01	磨石	Ⅲb層	17.3	6.2	2.3	360.2	完形	砂岩	全面磨面。棒状石器。
K2-85 AP01	石皿	SK202J 覆土	(30.0)	(15.0)	5.0	2410.0	1/4残存	砂岩	中央部のみ部分磨面あり。
K2-85 AT01	刺片	Ⅲb層	2.9	2.0	1.0	3.8	—	黒曜石	取打痕あり。

## ⑨恋ヶ窪遺跡第86次調査 個人宅造

所在地	国分寺市西恋ヶ窪一丁目22-19	調査面積	3.82㎡
調査期間	平成21年8月24日～8月28日(5日間)	担当者	小野本教

## ⑩恋ヶ窪遺跡第87次調査 個人宅造

所在地	国分寺市西恋ヶ窪一丁目22-16	調査面積	3.97㎡
調査期間	平成22年1月6日～1月15日(7日間)	担当者	小野本教

## 調査概要

両調査区は隣接しているため同時に報告する。調査区は、武蔵野段丘上で野川の開析谷である恋ヶ窪谷とさんや谷によって3方を囲まれた舌状台地上に位置する。当該地は、水利に恵まれた地形であったことから縄文時代中期の集落遺跡である恋ヶ窪遺跡が発見されている。

調査の対象は、いずれも給排水管の設置によって遺構に影響が及ぶ範囲にトレンチを設定し発掘調査を行った。

地表面下30cmで地山(Ⅲb層)を検出し、縄文時代の調査であるため地表下約50cmのⅢc層で遺構確認を行った。検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居1軒(SI158J)、土坑1基(SK203J)、小穴1基が検出された。

SI158Jは、調査区が狭小であるため全体規模は不明である。確認面からの深さは約40cmを測り、平面形は円形を呈していると考えられる。調査区内では柱穴などは確認できなかった。覆土中から縄文時代中期の土器や石器が検出された。87次調査区からは、石囲炉が検出された。他に深鉢(K2-87 JF01)が横倒しになった状態で出土し、土器内部に、入れ子状に深鉢(K2-87 JF02)が収められていた。

SK203JはSI158Jと重複して検出され、SI158J埋没後に造られていることからSK203Jが新しい。長径約3.0m、短径約1.0m、Ⅲb層からの深さは約140cmを測り、平面形は長楕円形を呈する。形状から陥し穴と考えられる。今回の調査地の位置する西恋ヶ窪一丁目周辺のこれまでの調査では陥し穴は検出されていない(『恋ヶ窪遺跡調査報告V』)。集落付近に陥し穴を造る可能性は低いと考えられることから、今回陥し穴が検出されたことで、当該地域では居住域のみでなく、狩猟の場としての土地利用が行われた時期があることが分かった。SK203Jの所属時期が明らかでないため土地利用が変化した時期は現時点では確定できず、今後の資料の集積が待たれる。

## 出土遺物

2つの調査区合わせて、SI158Jから縄文土器724点、石錐1点、打製石斧10点、磨石2点、剥片8点、砕片1点、遺物包含層から縄文土器158点、土製円板1点、打製石斧2点、磨石2点、攪乱から縄文土器23点、打製石斧1点が出土した。縄文土器は、縄文時代早期の田戸上層式期(K2-87 JB01)から後期の称名寺式期(K2-87 JG01)まで出土している。深鉢(K2-87 JE01)は勝板2式、深鉢(K2-86 JE01)は勝板3式、深鉢(K2-87 JF05)は加曽利E1式、深鉢(K2-86 JF01・04、K2-87 JF01～03・06～08)は加曽利E2式、深鉢(K2-86 JF10・11、K2-87 JF01)は加曽利E3式である。縄文土器は加曽利E2・3式が主体であるが、SI158Jの床面から入れ子状に出土した縄文土器(K2-87 JF01・JF02)が加曽利E2式であることから、住居の年代は当該時期であり、住居の廃絶後に加曽利E3式の土器が廃棄されたものと考えられる。



1. 86次調査区全景 北から



2. 86次 SK203J 完掘全景 西から



3. 87次調査区全景 北から



4. 87次 石囲炉検出状況 西から



5. 87次 遺物出土状況(1) 南から



6. 87次 遺物出土状況(2) 南から

恋ヶ窪遺跡第86・87次調査区





K2-86 SI158J JE01



K2-86 IIIb層 JF04



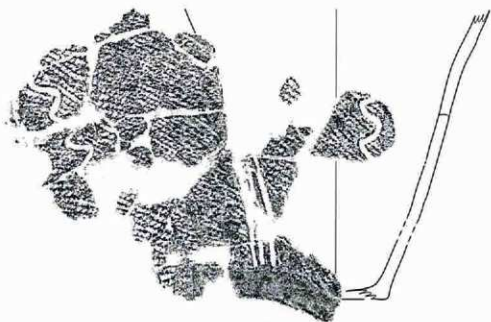
K2-86 IIIb層 JF10



K2-86 IIIb層 JF11



K2-86 IIIb層 DE01



K2-86 SI158J JF01

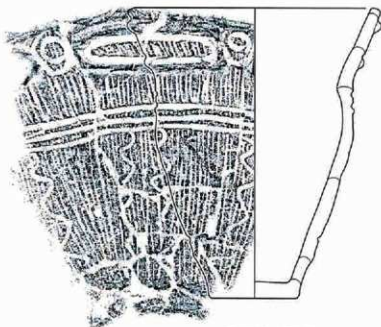




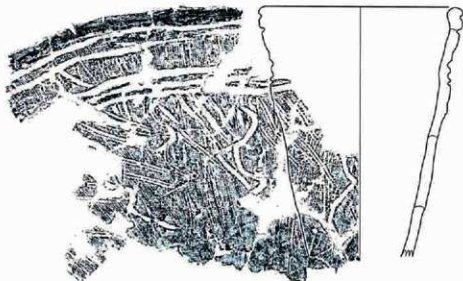
K2-87 SI158J JB01



K2-87 SI158J JB01



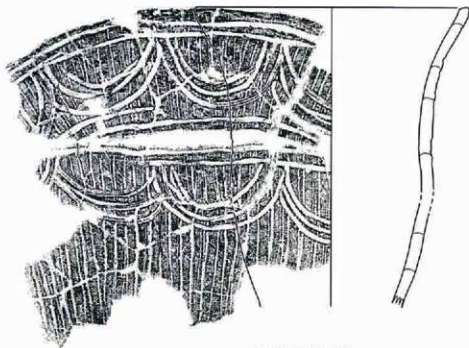
K2-87 SI158J JF01



K2-87 SI158J JF02

恋ヶ窪遺跡第87次調査 出土遺物





K2-87 SI158J JP03



K2-87 SI158J JP05



K2-87 SI158J JP06



K2-87 SI158J JP07



K2-87 SI158J JP08



K2-87 SI158J JP01



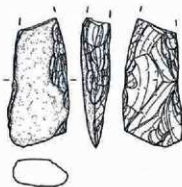
K2-87 SI158J JP21



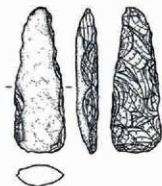
恋ヶ窪遺跡第87次調査 出土遺物



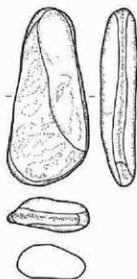
K2-86 SI158J AC01



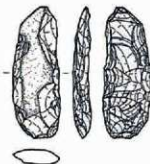
K2-86 III b層 AG01



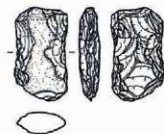
K2-86 III b層 AG02



K2-86 III b層 AL01



K2-87 SI158J AG01



K2-87 SI158J AG02







K2-86 JE01



K2-86 JF04



K2-86 JF11



K2-86 DE01



K2-87 JB01



K2-87 JE01



K2-86 JF01



K2-87 JF05



K2-87 JF06



K2-87 JG01



K2-87 JF01



K2-87 JF02



K2-87 JF03



K2-86 AC01



K2-86 AG02

恋ヶ窪遺跡第86・87次調査 出土遺物

縄文時代 土器一覧						
遺物番号	分類 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・造形の特徴	備 考
K2-86 JE01	深鉢	SI158J 覆土	— (4.4) —	—	隆帯で溝巻き文貼付け後、隆帯上へフタ状のみ。	褐色。やや硬質。砂粒微量混入。磨板3式。
K2-86 JF01	深鉢	SI158J 覆土	— (23.0) (8.0)	体部下平や内湾気味に立ち上がり、上平外反。	沈線で槽内に区画し、区画内中央に横方向に隆帯貼付け、隆帯から糸線を描き出し。	褐色～暗褐色。やや硬質。砂粒少量混入。加曾利E2式。
K2-86 JF04	深鉢	IIIb層	— (6.8) —	口縁部やや内湾。口縁部粘土貼付付け。	口縁部2状の沈線横位に施文。体部に糸線施文し、3条の沈線で遠文描き出し。	淡褐色。やや硬質。白色砂粒・雲母少量混入。加曾利E2式。
K2-86 JF10	深鉢	IIIb層	— (6.7) —	—	口縁部隆帯で溝巻き文貼付け。体部沈線を垂下・斜線に施文。内面横方向に磨き調整。	暗褐色～褐色。やや硬質。砂粒・雲母少量混入。加曾利E2式。
K2-86 JF11	深鉢	IIIb層	— (6.5) —	直線的に立上がる。	単純端文LR位位に施文後、沈線2条で区画し、区画内の遠文磨消し。	淡褐色。硬質。砂粒微量混入。加曾利E3式。
K2-87 JE01	深鉢	SI158J 覆土	— (5.0) —	—	沈線で縁線状に施文。	暗褐色。やや硬質。砂粒多量混入。田戸上磨式。
K2-87 JE01	深鉢	SI158J 覆土	— (3.7) —	—	沈線で槽内に区画し、区画内中央に横方向に隆帯貼付け、隆帯から糸線を描き出し。	暗褐色。やや硬質。砂粒微量混入。磨板2式(磨内)。
K2-87 JF01	深鉢	SI158J 覆土	20.0 24.2 7.0	口縁部から頸部にかけて外反。底部から体部下平まで直線的に立上がり、体部中央でゆる。	口縁部付近に沈線で槽内形区画を描き、周部に隆帯貼付け。区画内に沈線施文。体部全面に沈線施文し、体部上半部曲に2条の沈線を横位に施文し、そこから2条1線の波状沈線を垂下させる区画施文。	褐色～褐色。やや硬質。砂粒少量混入。加曾利E2式。
K2-87 JF02	深鉢	SI158J 覆土 土器内	(15.6) (21.0) —	口縁部～体部下平にかけて直線的に立上がる。	体部全面糸線施文上に斜線・波状の沈線。口縁部・体部上半に2条の沈線描き出し。	暗褐色。やや硬質。やや砂粒混入。加曾利E2式。
K2-87 JF03	深鉢	SI158J 覆土	(22.6) (25.0) —	口縁部から頸部にかけて外反。底部から体部下平まで直線的に立上がり、体部中央でややゆる。	体部全面に沈線施文。口縁部・体部上半部曲部に2条の沈線横位に施文し、区画、3条1線の沈線を、口縁部沈線から6区画、器底部の沈線から5区画遠文施文。	淡褐色～暗褐色。やや硬質。砂粒微量混入。加曾利E2式。
K2-87 JF06	深鉢	SI158J 覆土	— (5.3) —	—	体部単純端文LR斜位に施文。隆帯を横方向に貼付け区画、波状に垂下して貼付け。	淡褐色～暗褐色。やや硬質。砂粒・雲母混入。加曾利E1式。
K2-87 JF06	深鉢	SI158J 覆土	— (5.3) —	—	沈線を口縁部に横位・斜位・溝巻きに施文。溝巻きに隆帯貼付け。	淡褐色。やや硬質。砂粒・雲母少量混入。内面磨き調整。加曾利E2式。
K2-87 JF07	深鉢	SI158J 覆土	— (2.9) —	—	口縁部横位に沈線2条描き出し、間に突刺し文施文。体部は糸線施文。	褐色。やや軟質。砂粒やや多量混入。加曾利E2式。
K2-87 JF08	深鉢	SI158J 覆土	— (3.3) —	—	穂糸で施文後、2条の沈線で遠文描き出し。	褐色。やや軟質。砂粒やや多量混入。加曾利E2～E3式。
K2-87 JF21	深鉢	SI158J 覆土	(37.6) (3.6) —	口縁部付近内面に突帯貼付け。口縁部やや外平。	口縁部内面から外面に向けて斜位に沈線施文。	淡褐色。やや硬質。粘土散布。加曾利E3式?体部内面突帯下、磨き調整。
K2-87 JC01	深鉢	SI168J 覆土	— (2.8) —	—	沈線でモチーフ描き出し。	暗褐色。やや軟質。砂粒やや多量混入。磨板磨式。

## 第2章 平成21年度埋蔵文化財調査の概要

縄文時代 土製品一覧									
遺物番号	種別	出土位置	直径 厚 重量	器形の特徴		成・整形の特徴	備考		
K2-86 DE01	土製 円板	IIIb層	3.5 1.0 16.3	円形。		条線で施文。	褐色。やや硬質。砂粒微量混入。欠損面磨耗。		
縄文時代 石器一覧									
遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考
K2-86 AC01	石鏃	SI15R 礫土	4.6	2.0	0.7	6.0	完形	ホルンフェルス	押圧により全面剥離し、刃部削出。
K2-86 AG01	打製 石斧	IIIb層	(10.5)	5.1	2.4	161.0	基部欠損	砂岩	押圧により裏面を剥離し、刃部調整により削出。
K2-86 AG02	打製 石斧	IIIb層	12.1	4.2	1.8	113.4	完形	ホルンフェルス	押圧により裏面を剥離し、刃部調整により削出。
K2-86 AI.01	磨石	IIIb層	14.9	6.8	2.9	400.0	完形	砂岩	全面磨面。側面下部、敲打痕あり。棒状石鏃。
K2-87 AG01	打製 石斧	SI15R 礫土	11.0	4.0	1.5	84.0	完形	砂岩	打撃により裏面を剥離し、刃部を調整。
K2-87 AG02	打製 石斧	SI15R 礫土	7.8	4.4	1.7	85.9	刃部欠損	ホルンフェルス	押圧により裏面を剥離し、側面調整。

## ①No.34遺跡第1次調査 確認調査

所在地	国分寺市西恋ヶ窪二丁目3-3,4,10他	調査面積	63.68㎡
調査期間	平成22年1月20日～2月3日（10日間）	担当者	小野本敦

## 調査概要

調査区は、武蔵野段丘上の恋ヶ窪谷西壁より約100m西方に位置する。調査の対象は、駐輪場ゲート・守衛室の基礎および排水管理設によって遺構に影響の及ぶ範囲である。当該個所にトレンチを設定し遺構の確認を行った。

地表面下約40～60cmで地山(Ⅲa～Ⅲb層)を検出し遺構確認を行った。遺構は、縄文時代の土坑1基(SK1J)、小穴1基(PJ-1)を検出したが、小規模であったため本調査へは移行せず、確認調査の期間内で調査を完了した。

SK1Jは、長径1.2m、短径77cm、確認面からの深さ19cmを測り、平面形は長方形を呈する。

当調査は、No.34遺跡における初めての確認調査であり、No.34遺跡は縄文・奈良・平安時代の散布地とされているが、当調査では縄文時代の遺構・遺物が少量検出されたのみで、奈良・平安時代の遺構・遺物は確認できなかった。

## 出土遺物

Ⅲb層上部から縄文土器27点、打製石斧2点、磨石1点、剥片1点が出土している。縄文土器JE01・02は勝板式貉沢式期、JE03は阿玉台式期の土器である。出土土器の年代から、縄文時代中期の集落の存在を窺うことができる。



1. 歴史時代調査区全景(1) 西から



2. 歴史時代調査区全景(2) 東から



3. 縄文時代調査区全景(1) 東から



4. 縄文時代調査区全景(2) 南から

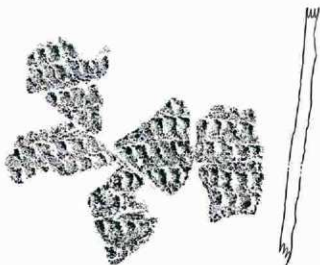




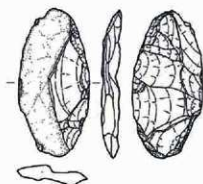
K34-1 III b層 JE01



K34-1 III b層 JE02



K34-1 III b層 JE03



K34-1 III b層 AG01



No. 34遺跡第1次調査 出土遺物



K34-1 JE01



K34-1 JE02



K34-1 JE03

## No. 34遺跡第1次調査 出土遺物

縄文時代 土器一覽									
遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備 考			
K34-1 JE01	深鉢	Ⅲb層	— (4.1) —	—	隆帯を横位に嵌状に貼り付け、 角押文を縦位に2条施文、両 側に綾杉状に施文。	橙色。硬質。砂粒少量混入。 勝坂1式(落沢式)。			
K34-1 JE02	深鉢	Ⅲb層	— (5.6) —	口縁部やや屈曲。	口縁部、角押文を横位に施文。 口縁部周辺に角押文で楕円形 掘き出し。	橙色～暗褐色。硬質。砂粒少量混入。 勝坂1式(落沢式)。			
K34-1 JE03	深鉢	Ⅲb層	— (20.4) —	—	体部全面爪型文を施文。	茶褐色。やや硬質。金雲母・砂粒多量 混入。 阿玉台1a～1b式。			
縄文時代 石器一覽									
遺物番号	種別	出土 位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備 考
K34-1 AG01	打製 石斧	Ⅲb層	11.7	5.5	1.5	108.1	完形	砂岩	裏面無調整。側縁部押圧により調整。



## ⑫花沢東遺跡第11次調査 確認調査

所在地	国分寺市南町二丁目 381-7,8,15	調査面積	20.44 m <sup>2</sup>
調査期間	平成21年7月8日～7月15日(2日間)	担当者	立川明子

## 調査概要

調査区は、野川本流と殿ヶ谷戸谷に囲まれた国分寺崖線斜面下部に立地する。調査の対象は、集合住宅建設に伴う土地造成工事によって遺構に影響が及ぶ範囲である。

斜面下部(Aトレンチ)、斜面上部東西(B・Cトレンチ)にトレンチを設定し調査を行った。Aトレンチは、現地地表下約0.8mで野川旧河道における堆積層と考えられる白色シルト質土を検出した。Bトレンチは、地表下約1.1mで立川ロームIV層を検出し、旧石器時代調査のため地表下約2.4mのX層まで掘り下げた。地層は南東方向に低く傾斜していた。Vb層から焼礫と礫片が検出された。Cトレンチは、地表下約0.6～2.0mにかけて、暗褐色土、黄褐色土、砂礫層が堆積していた。地層は南西方向に低く傾斜しており、斜面地の再堆積層と考えられることから、B～Cトレンチ間に北西～南東方向の小支谷が入り込んでいたと考えられる。当該地の地層の知見をまとめると、斜面部にローム層が堆積していたことから、段丘が古摩川によって開削された後も、斜面地にローム層が堆積したことが分かった。斜面下部は、近年まで野川河道であった。以上のように調査区内には小谷と旧河道が入り込んでおり、遺構が存在する可能性は極めて低い状況が確認できた。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



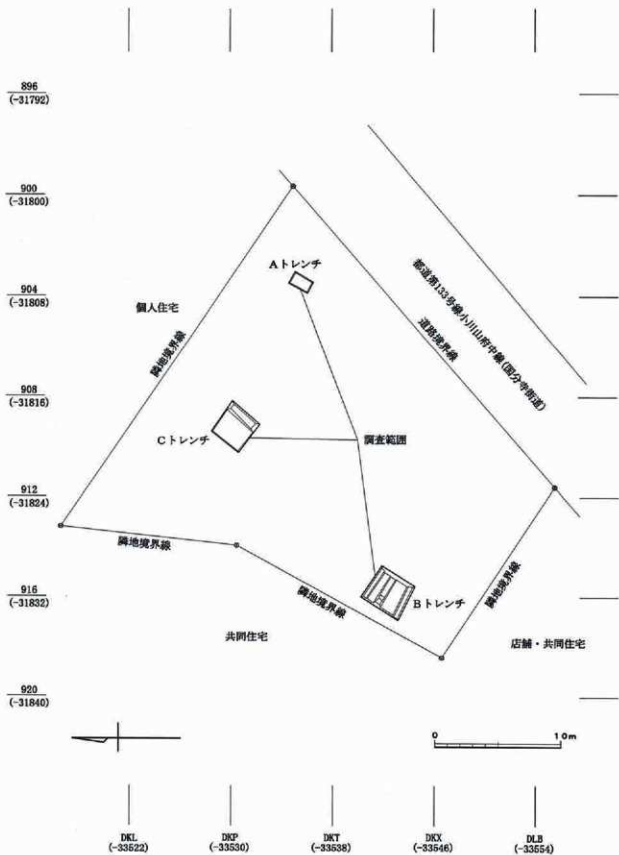
1. Aトレンチ全景 西から



2. Bトレンチ遺物出土状況及び全景 南から



3. Cトレンチ全景 南から



⑫地区 第11次調査区全体図

## 付編 平成3～13年度の小規模調査の概要

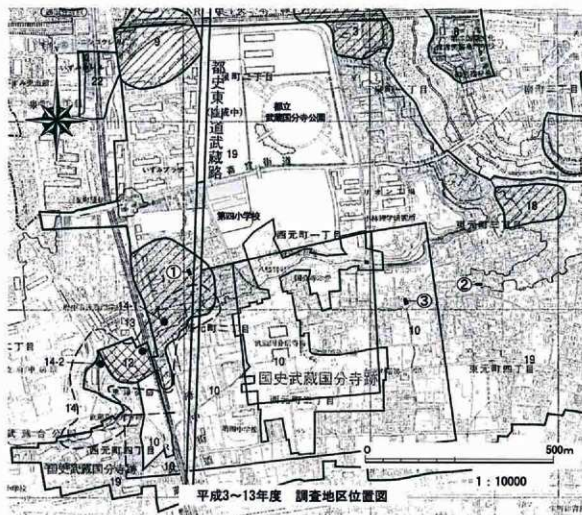
### 平成3～13年度 調査地区一覽

第12表 武蔵国分寺跡(遺跡No.10・19) 個人宅造に伴う発掘調査

地区番号	調査回数	調査原因	所在地	面積 (㎡)		現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	対象			
①	359	個人宅造地	西元町二丁目 2545-40	10.37	213.69	H3.6.26~7.2 (5日間)	検出遺構なし	0
②	377	個人宅造地	東元町三丁目 1452	6.90	95.85	H4.11.26~12.4 (7日間)	検出遺構なし	0
面積合計				1.94	309.54		箱数合計	0

第13表 武蔵国分寺跡(遺跡No.10・19) 試掘調査

地区番号	調査回数	調査原因	所在地	面積 (㎡)		現地調査期間	検出遺構	遺物箱数
				調査	対象			
③	540	共同住宅建設	東元町三丁目 1553	11.60	296.54	H13.8.16 (1日間)	検出遺構なし	0
面積合計				11.60	296.54		箱数合計	0



## ①武蔵国分寺跡第359次調査 個人宅造地

所在地	国分寺市西元町二丁目 2545-40	調査面積	10.37 m <sup>2</sup>
調査期間	平成3年6月26日～7月2日 (5日間)	担当者	上敷領久

## 調査概要

調査区は、武蔵野段丘上で、東山道武蔵路(SF1)から約20m西に位置する。調査の対象は排水管埋設によって遺構に影響の及ぶ範囲である。地表下約60cmで地山(Ⅲb層)を確認し、遺構確認を行った。調査区内は攪乱が多く及んでおり、遺構は検出されなかった。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



1. 調査区全景 東から



2. 調査区全景 西から

## ②武蔵国分寺跡第377次調査 個人宅造地

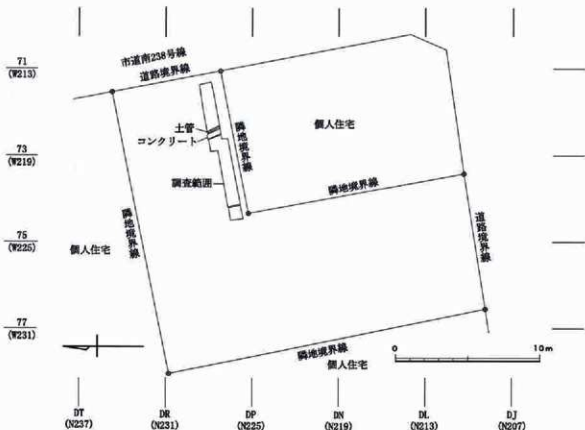
所在地	国分寺市東元町三丁目 1452	調査面積	6.90 m <sup>2</sup>
調査期間	平成4年11月26日～12月4日 (7日間)	担当者	上敷領久

## 調査概要

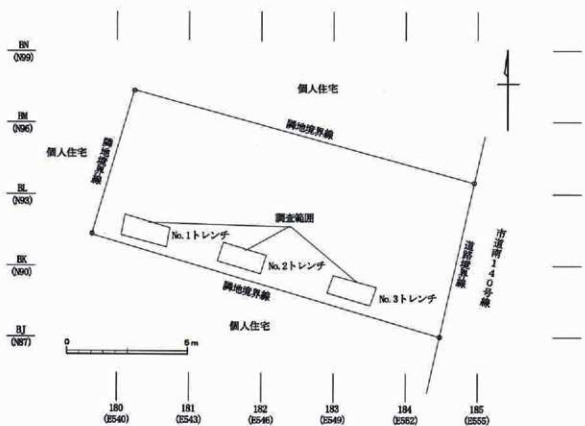
調査区は、僧寺寺院地中軸線から約550m東方の、寺院地外東方地域に位置する。排水管埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲にトレンチを設定し確認調査を行った。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



①地区 第359次調査区全体図



②地区 第377次調査区全体図

## ③武蔵国分寺跡第540次調査 試掘調査

所在地 国分寺市東元町三丁目 1553

調査面積 11.60 m<sup>2</sup>

調査期間 平成13年8月16日(1日間)

担当者 木下さおり

## 調査概要

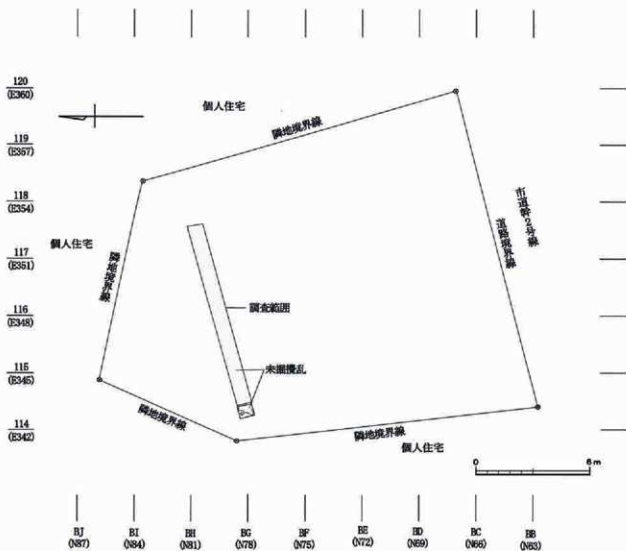
調査区は、僧寺寺院地中軸線から約350m東方の寺院地東北地域に位置する。調査の対象は排水管埋設によって遺構に影響の及ぶ範囲である。地表下約60cmで地山(Ⅲb層)を確認し、遺構確認を行った。調査区内は攪乱が多く及んでおり、遺構は検出されなかった。

## 出土遺物

遺物は出土しなかった。



1. 調査区全景 西から

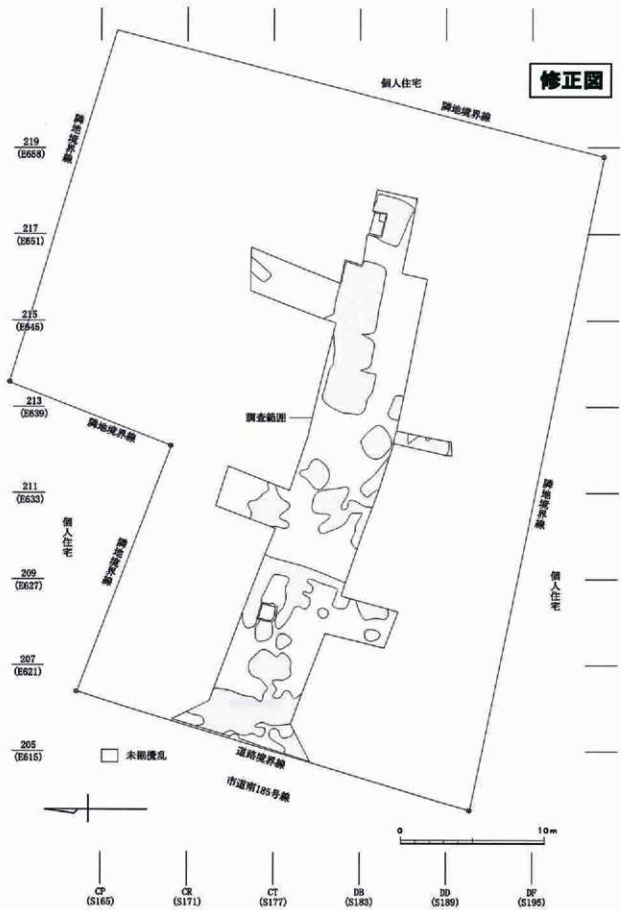


③地区 第540次調査区全体図

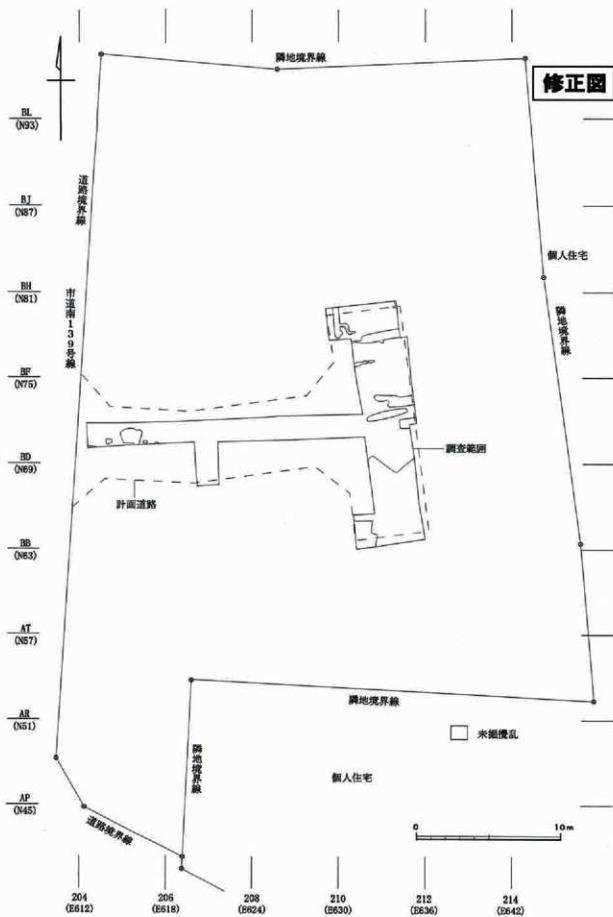
## 平成 18 年度武蔵国分寺跡第 608 次調査及び 611 次調査修正図

平成 18 年度国分寺市埋蔵文化財調査年報において報告した武蔵国分寺跡第 608 次調査及び第 611 次調査について、調査地全体図を変更した。これは、武蔵国分寺跡遺跡内の道路に設置した測量基準点のうち、当該調査地点で使用した測量基準点座標に誤りがあり、そのため測量基準線も正確でないことが判明したためである。そのため再度測量を行い、正しい調査基準線による調査地全体図を修正図としてここに掲載するものである。





平成18年度 第608次調査区全体圖



平成18年度 第611次調査区全体図

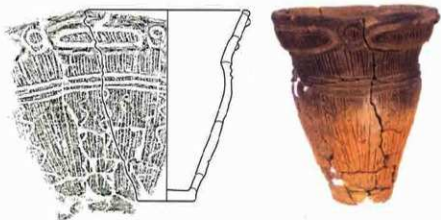
平成 21 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

---

発行日 平成 23 年 3 月 31 日  
編著者 国分寺市遺跡調査団  
© (団長 坂詰 秀一)  
発行所 東京都国分寺市教育委員会  
(ふるさと文化財課)  
〒185-0023 国分寺市西元町 1-13-10  
(武蔵国分寺跡資料館内)  
Tel 042-300-0073  
印刷所 明文社

---

令和 4 年(2022) 2 月 3 日 デジタル版作成



(志ヶ窪遺跡跡地区(西志ヶ窪1丁目)出土 縄文土器深鉢)